

足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録

会 議 名	足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
事 務 局	地域文化課 課長 中島宣幸 係長 小栗洋平 係員 鈴江和俊 係員 村田貴紀 係員 中村友理 住区推進課 課長 江川博文 係長 矢野恵子 係員 醍醐和可子		
開催年月日	令和 6 年 1 0 月 2 2 日（火）		
開催時間	午前 9 時 3 0 分～午前 1 1 時 3 0 分		
開催場所	足立区役所 別館 3 階 3 0 1 会議室		
出席者	渡辺千歳委員 （東京未来大学 こども心理学部教授）	山縣朋彦委員 （文教大学教育学部 学校教育課程教授）	伊志嶺絵里子委員 （東京藝術大学音楽学部 非常勤講師）
	酒井雅男委員 （銀座ヒラソル法律事務所 弁護士）	工藤隆朗委員 （足立区立小学校 P T A 連合会元副会長）	四宮淳司委員 （足立区少年団体連合協 議会会長）
欠席者	なし		
会議次第	1 開会 2 事務局説明 3 指定管理者ヒアリング 4 意見交換・評価点決定 5 閉会		
資料	資料 1 業務評価シート 資料 2 業務評価チェックシート 資料 3 加点提案書一覧 資料 4 条例等一式 資料 5 令和 5 年度協定書 資料 6 令和 5 年度各種報告書 資料 7 令和 5 年度広報誌一式 資料 8 令和 5 年度アンケート結果		
その他			

【開会】

【事務局説明】

＜小栗係長＞

おはようございます。

皆様お揃いですので、第 2 回ギャラクシティ運営評価委員会を始めさせていただきたいと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。本日は前回からの残りの項目のヒアリングと、評価点の決定を中心にさせていただきたいと思っております。初めに、チェックシートの、21 ページになりますが、ふれあい交流事業というものがございます。その中で、指定管理者の自己評価が○になっていて、区の方ではモニタリングして×にしている項目でございます。こちらについて、先にご説明させていただきたいと思っております。区のモニタリング結果で×にしている、アレルギー事例があった件でございます。

こちらの内容ですけれども、ギャラクカフェの中で起きた案件でございます。どういった事故かと申しますと、卵アレルギー、小麦アレルギーをお持ちのお子さんがギャラクカフェをご利用された時に、アレルギーが豚肉表示のみだったお子様カレーを頼んだのですけれども、実際は、数日前にそのカレーのレトルトが切れたために違う商品を入れて使用していた、その違う商品が、アレルギーは豚肉だけではなくて小麦粉が使用されていた、したがって、そのお子さんに反応が出てしまったという案件でございます。

このお子さんは、吐き気ですとか、ちょっと呼吸が苦しくなったりですとか、そういった症状が出たために、ギャラクシティの

事務室で少し休んでいたのですが、症状が治らないので、ご持参されていたエピペンを打って症状が改善したと。ただ、改善したと申しましても、心配ですので、そのまま救急車で搬送をし、病院で見てもらって大事に至らなかったというような内容でございます。

こちらについて、改善点も、区と一緒に、考えて、作成しており、今後の対応として、まず初めに足立保健所が、アレルギーの再認識とメニュー表記の方法ということでギャラクシティに行き、助言と指導をしました。それに基づいてメニュー表記の再確認と全従業員に対してアレルギーの再認識を促したということでございます。また、メニューの食材変更の際なんですけれども、食材変更時のルールが確立されていなかったというところもございますので、メニュー変更はギャラクカフェの運営している店長のみで行っていたところを、メニュー変更が行われる際は、指定管理者に協議をして、さらに指定管理者から区の方にも報告をするという、二重チェックができる体制を作ったということでございます。

簡単ではございますけれども、アレルギー、事例につきましては、このような事例がございましたので、区の方では×にしております。

はい。それでは、ここからの進行は委員長にお願いしたいと思いますので、渡辺委員長どうぞよろしくお願いいたします。

＜渡辺委員長＞

ただいまから、ギャラクシティの令和 5 年度運営にかかる第 2 回運営評価委員会を開催いたします。早速ではございますが議事

進行に移ります。では、指定管理者のヒアリングを行いますので、指定管理者に入室していただきます。

【指定管理者ヒアリング】

＜指定管理者＞

おはようございます。お願いいたします。

＜渡辺委員長＞

それでは、本日のヒアリングでは前回のヒアリングの残りの項目と、全体で追加の質疑や新たな問題点などを、さらにお聞きできればと思います。ヒアリングの時間は10時30分までとなっております。よろしくお願いいたします。

＜村田館長＞

はい。チェックシートと加点提案書に基づいて、要点を中心にご説明させていただきます。まず、5番のマルチ体験ドームの活用事業についてです。チェック項目は色々あると思うんですけども、プラネタウムの投影回数、多様な投影ですとか、天体宇宙プログラムも仕様書指定の回数を超えた事業を展開しております。2ヵ年計画にもありますように、4年ぶりに開催されました足立の花火を、実際に撮影しまして映像番組として、制作しております。区参加型としましては360°カメラのシータというカメラがあるんですけど、それを区民地域の方にお貸しして、取ってきていただいた映像をマルチ体験ドームで映すという迫力のある投影体験も行っておりますので、我々が提供するプログラムを見ていただくだけでなく、私たちの共有財産を皆様に使っ

ていただきたいという思いでそういった機会も増やしております。加点提案書に関しましては23ページ、ギャラクマンの冒険マジックプラネタリウムについてです。このギャラクマンの冒険マジックプラネタリウムというのは、天文の不思議と関連したマジックを行う日本で唯一と言っても過言じゃないです。唯一無二のプログラムで、ギャラクシティらしい子供との掛け合いやギャラクマンを応援する、参加型のイベントでもあります。ギャラクマンにまた会いたいというアンケートもととても多く、リピーター、ファンも獲得しております。2023年度に関しましては年12回開催し、5回完売になっております。これは現在2024年度も継続しております。ギャラクマンの正体は実は我々の職員でして、唯一無二というのは、他のところでは、天文の解説員とマジックの方が別々なところが多いんですが、うちの場合は、同一人物がやっているという意味で、日本で唯一のプログラムと思います。続きまして、チェックシート19ページ、アウトリーチプログラム。チェック項目に関しましては、2ヵ年計画では、天体20回、ワークショップ40回の計60回程度に対して、必須、提案型含めて78回実施しております。移動プラネタリウムでは、東京未来大学との連携、生物園での実施、また職業体験では伊興中、新田学園で実施させていただきまして、15種類の職を設定しております。また、その行く先々の中学校に向けて、事前にビジネスマナーの研修も行っております。名刺交換とか電話の受け答え、挨拶の仕方なども、教えております。現在は、区内4中学校まで広がっております。加点につきましては25ページになりま

す。足立区三大祭りへの出展とストリートピアノのアウトリーチ。ギャラクシティとして、初めてでありました新しく足立区の三大祭り等の大型イベントに出展させていただき、ギャラクシティのPRを行ってまいりました。参加者数は2022年度の約3倍である4451名の方にご参加いただいております。ちなみにコロナ前は2018年度2800人に対して1.5倍に増えております。アウトリーチ実施日はホームページへのアクセスも多くなり広報的にもPRに繋がっていると思います。また、ストリートピアノでは、竹ノ塚駅付近のミントポさんに、出向きまして開催しております。53名の方にお楽しみいただいております。5年度は、北千住のマルイさんでも実は2回計画しておりましたが、2回とも雨台風で中止となってしまうしました。今年度は、雪辱を晴らし、天気が良かったので実施しております。これまでの、運営に関わっていただいている団体、企業の方とアウトリーチ先で関わっている団体企業と良質な関係を築いておりますので、今後もアウトリーチを続けていきたいと思っております。続きまして、7番の開発事業でチェックシート20ページ。チェック項目、誰でもいつでも参加できる館内を巡るクイズラリーでは年間4種開催し、混雑時や空いてる時間に楽しめるコンテンツを継続して、開催しております。加点につきましては、28ページになります。「あだち鉄道ミュージアムスペシャル」は、2023年度で2回目の開催となります。区内を走る鉄道3社、東武鉄道さん、京成さん、JR東日本さん、あとはNPOさんとボランティアさんと共に実施させていただいております。2022年度に、開催したお仕事体験、車

内アナウンス体験、駅員の方とのフォトスポット等は継続して実施し、さらに新たなプログラムとして開発したのは、マルチ体験ドームで行う360°カメラで、鉄道博物館を撮影させていただいて、これをバーチャルツアーという形で投影させていただきました。かつて足立区を走っていた懐かしの鉄道の紹介とか運転席からの眺めを360°見ることができるなど、マルチ体験ドームを生かしたプログラムとなり1時間で整理券も、配布終了になりました。他にも図書館との連携や、駅弁の販売、さらに楽しめる大型イベントに拡充しておりまして、参加者数は1万2000人を超え、2022年度の1.5倍になりました。2024年度は11月に予定しておりますが、さらに文化ホールを加えて全館的に開催していきます。続きまして8番のふれあい事業、チェックシート項目21ページ以降になります。チェック項目、「大ひょうげん」という子供がプロから学び自己表現にチャレンジする、そしてその成果を大きな舞台や他の場所で発表するプログラムがあるのですが、歌舞伎、スポーツジャグリング、クライミング、ダンスなど子供たちが夏休み期間に挑戦し、文化ホールや他の場所で、大勢の人の前で発表することができました。アンケート結果からは、諦めないこと、練習の大切さを学んだという声を多数いただいております。Gがくえんでは、中高生の部員が自らライブの企画を立ててマルチ体験ドームで開催し、運営について色々一緒に考えていこうということ学ぶ機会にもなっております。加点が31ページになります。世界の音楽に触れる2日間、8月11日、12日にて2日間開催しており、8月11日はピアノをテーマ

にしたイベント、12日は世界の音楽をテーマにした2日間のイベントを開催しています。音楽の日は他の事業もそうですが、鑑賞のみならず実際に触れて体験していただくということで、今後の活動のきっかけになればということで、数多く設定しており、2日で16の体験を用意しております。文化ホールでは、これは鑑賞中心になるんですけど、今回中国の伝統楽器の古箏というライブを聞いていただきました。この奏者は実は、坂本龍一さんのラストエンペラーのサントラ版に、バックミュージシャンで参加しております。あとはジブリ作品のサントラにも参加しており、色々な活躍を日本でされている方です。これは、世界の音楽につきましては、子供たちが、世界の音楽、文化に目を向けるきっかけづくり、グローバル思考ではないですが、そこの一助となるような珍しくて普段体験できないようなものということで設定しております。9の大人体験事業でページが23ページになります。チェック項目、クライミングの連続講座、大人の趣味講座として、羊毛フェルト、鉄道ジオラマ、レジンアクセサリー、ブリザードフラワー等の物作り講座も実施しております。加点につきましては、38ページ「大人向け、マルチ体験ドームの活用」ということで金曜日の19時半から、プログラムを実施しております。来館者に分かりやすく週単位でプログラムを固定しました。1周目は映像番組、2周目はヒーリングタイム、3週目は星とピアノ、4周目はアストロノミーという、固定したものを、分かりやすく、スケジュールして、アピールしております。映像番組では、ご当地人気のアニメ、足立区のご当地アニメを描いている、

「ソラノユキサキ」の回数を増やし、ヒーリングタイムでは、音楽だけじゃなくて映像でリラックスできるような空間を演出する。「星とピアノ」では人気YouTuberの積極的な起用をしまして、ファン層も獲得しております。ピアノ以外の和楽器、例えば尺八や三味線などの、コラボレーションも企画しております。大好評でございます。4週目は、以前は「星空散策」というタイトルでやっておりまして、これを2つに分けて、大迫力の映像中心に楽しんでいただくビジュアル宇宙図鑑、あと天文学宇宙を深掘りして、ちょっと難しいこともあるアストロ講座の2つに分けて年間テーマを決めて展開しております。あとは2月に毎年実施しております国際科学映像祭ではクリエイターがAR、VR、XRなど最新デジタルを駆使したプログラムや海外からも応募があります。ショートフィルムコンテストも人気で来館者も増加しております。以上マルチ体験ドームにつきましてはここ数年メディアからの、問い合わせが殺到しております。可能性は無限大であり、話題性のあるコンテンツをこれからもお届けしていきたいと思っております。以上となります。

<渡辺委員長>

はい、ありがとうございました。それではここまでで、何か質問ありますか。

<工藤委員>

はい。チェックシート23ページの大人体験事業の②で、利用者数が前年度比160%増かと思いますが、コロナの影響は22年か23年であるかなと思いますので、その前の年だったり、その前の前々年度っていうところと比べると、コロナの影響を排除した場

合は何%くらいか教えてもらってもよろしいでしょうか。

<浅賀副館長>

明確な数値というのは今お答えすることができないですが、ただ、この「星とピアノ」であったり、生演奏を含めた天体プログラムというのはコロナ以降から始めたものが多いです。そのため大人向けの金曜日の夜間の投影を充実させているんですが、昨年度 2023 年度は年間パスポートの使用枚数が、この金曜日に関しては、5 人から 7 人の方が作る方が多く、年間パスポートというのは土日祝日ですと、10 人程度の方が作られることが多いですが、この星とピアノに関しては 5 人〜7 人に増えてますので、この年間を通して利用したいと思われる方は増えています。そういったものが、反映されているのではないかと考えています。

<工藤委員>

分かりました。ありがとうございます。

<村田館長>

「星とピアノ」は、2022 年度から実施しているのですが、実は 2020 年度の途中から少し始めていたんです。その前は大人の金曜日は本当に数名程度だったんですが、これをきっかけにだいぶ増えまして、先ほども、お伝えした通りバラエティに富んだ内容にしたことで、現在は平均 50 人から 90 人で推移しております。

<浅賀副館長>

あともう 1 つの補足でして、金曜日の夜間、クライミングのイベントが始まっているん

ですが、こちらもコロナ後から始めたものとなります。コロナ前は水曜日の大人の連続講座のみになっていたんですが、金曜日の夜間に大人の時間を、そのプラネタリウムのプログラムと共に開催することで大人の方の利用は増えております。

<渡辺委員長>

はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

<伊志嶺委員>

はい。「世界の音楽に触れる 2 日間」について、以前白石先生のピアノ解体ショーを西新井文化ホールでやらせていただいて、このイベントをギャラクシティに移行したことで何か効果はありましたか。

<村田館長>

まず白石先生とは、音楽の日以前から区を代表するピアニストだと思っていますので、お付き合いをさせていただいております。ピアノ解体ショーは、この音楽の日で初めてやらせていただいて、やっぱり子供たちが普段見られない体験なので食い入るように見てました。これは、毎年やらせていただいているのですが、とても好評でございます。先生がやはり同じ派の演者の方を連れて来られますので、やっぱり足立区の演者の紹介というか PR というか、すごい効果があるのかなということと、音楽の日は、見るだけじゃなく体験を色々な方にやって欲しいということで、モールも当然なんですけど、あとフリースペースも使うのですが、子育てサロンで、未就学児向けに、演奏していただきました。そしたら、子供た

ちが泣き止んだというのがあるんですけども、やっぱり1番感動されたのは、お母様たちが癒されてるなというところで、その発見がすごくありました。だからそういった意味では、気づかなかったんですけど、子育てサロンとか、全館で広げていくべきかなと思って、今年西新井文化ホールで取り入れました。全館に広がっているのと未就学児向けにも、もちろん子供の情操教育にもいいんですけど、お母様たちを癒せたのも結構効果的だったと思います。

<伊志嶺委員>

この「現代音学って何だ!？」の川島先生も有名な先生なので、たくさんの子供たちがこういうものを聞いてもらえると現代音楽にもすごく親しみやすくなっていいなと思うのですが、人は集まっているんですか？

<村田館長>

集まっています。

もちろん、対象は子供とお伝えしてあるので子供向けに分かりやすくしていただいています。

<伊志嶺委員>

ありがとうございます。

<渡辺委員長>

はい、ありがとうございます。では次に移りたいと思います。今度は西新井文化ホール事業です。お願いいたします。

<村田館長>

では評価シートは24ページ、文化交流の場となる環境作り。チェック項目は、区内で

活動している歌手大前さんという方のプロデュースで、西新井文化ホールで共催でコンサートを開催しております。タイトルは「音楽のあふれる街 ADACHI につぼんのあの歌 この歌 こんな歌」ということでやっております。バイオリン奏者、チェロ、オカリナ、フルート奏者も全て足立区在住の演奏者の方に、多数出演していただきました。あとは公立文化施設協議会に加入しておりますので、公演のチラシの相互配布などを継続して行っております。内部連携に関しましては、シアター1010さんと、ギャラクシティが今年30周年、シアター1010さんが20周年ということで、記念事業を合同開催しようということで連携した企画を昨年、2024年5月に実施しております。加点につきましては、41ページ、芸団協との連携事業になっています。伝統芸能の専門団体、芸団協さんの連携により質の高い指導と本物の楽器体験が実現しております。子供たちの関心を引き出すために、ジャパンフェスタというイベントで行ったんですが、ジャパンフェスタのテーマが妖怪を取り上げていましたので、妖怪にちなんだ音や踊りを、芸団協さんに頼んで取り入れていただき、楽しく遊びながら、学べる工夫をしながら、伝統文化に親しんでもらえるようにしました。楽しく伝えることは、次世代に伝統文化を受け継ぐための、重要なポイントだと思っております。続きまして、区民応援型事業で、25ページになります。チェック項目、支援団体の足立シティオーケストラ、足立吹奏楽団、足立区民合唱団、歓喜の演、ブリランテというのがありますが、毎年定期演奏を行っております。その定期公演の時にチケット予約シ

システムの活用や広報宣伝、公演間近になりますとプロモーションイベントの開催などで、日常より連携を取りながらご協力させていただいております。加点につきましては、43 ページ、伝統芸能継承プログラムになります。子供たちが、狂言、神楽を実際に体験し、興味を持つ機会を提供しております。数回のワークショップを重ねて成果発表を繰り返す体験活動を、地道にこれまでもやってきましたが、これをつなげることで、伝統文化の保存と継承、未来に向けた繋がりを築いていくという、その取り組みは、もう一過性ではなく、使命感を強く持って、継続していくべきものという風に我々も考えております。続きまして、エンターテイメント興行で、チェックシート 26 ページ。仕様書、21 個のエンターテイメント興行の規定に対して、多様なエンターテイメント興行 28 本を実施しております。加点につきましては 44 ページ。エンターテイメント興行プログラムを多数開催ということで、特に、ザ・グレイテスト・エンターテイメントショーなんですけれども、こちらはプロのアーティストとの共演を目玉としております。歌やダンスなどのワークショップを重ねて、本番の一部のコーナーで、プロと共演を果たすというプログラムでございます。これは、2023 年度に関しては、現役アイドルの方と共演を果たしております。その他、ストリートピアノフェスティバル、ロックコンサートというイベントがあるんですけれども、両コンサートともオープニングアクトの出演者に一般の方に出させていただきました。ジャパンフェスタでは津軽三味線の人気アーティスト、上妻宏光さん。この方はお亡くなりになった志村け

んさんの唯一の弟子ということで有名な方だと思うんですけど、このコンサートの中でプロの演奏家をバックに和の創作ダンスを踊るところで、プロのアーティストの方と夢の共演を果たしていただいております。我々がやってきた取り組みに大ひょうげんというのがありますけれども、成果発表をホールとか色々な場所でやるのですが、このプロのアーティストに関しましては、やはり有料公演の出演の一部という風になりますので、練習の過程とか厳しさとか、それを乗り切った達成感、自己肯定感や時には挫折感も味わうんですけど、そういったものが大きいのかなということで、親御さんともども貴重な体験となるプログラムで、西新井文化ホール唯一無二のプログラムと確信して、これも提供し続けていきたいと思えます。ストリートピアノフェスティバルは、これまであまり来られてない主婦層の方が中心で、ロックイベントでは 50 代、60 代の男性の方が多く来られましたので、普段あまり来られない方、新規顧客獲得と認知度向上に、繋がっているという風に思っております。エンターテイメント事業に移ります。27 ページとなります。動員率 75%、顧客満足度 97%、リピート希望率 92.4%で、目標を達成させていただいております。加点につきましては、50 ページ、チケット完売公演で、挙げさせていただいております。年間 3 本のチケット完売を目標としたんですけども、実際、2023 年度に 4 本達成しております。ジャパンフェスタというイベントで、伝統文化に明るい、デーモン閣下さんを音楽公演ではなく、文化人として招聘しておりまして、伝統文化、特に大相撲が詳しいので、大相撲についての講演なんか

もしていただきました。事前に 1800 名の応募がありまして、抽選で、900 名に絞らせていただいて、5 割の方が区外ということで、こちらも文化ホールの知名度アップに繋がったという風に思っております。文化ホールに関しては以上となります。

<渡辺委員>

はい、ありがとうございます。それではご質問はいかがでしょうか。

<伊志嶺委員>

まず西新井文化ホールは、使用率、稼働率がとても高くして他の公立文化施設と比べて頑張っていて素晴らしいと思います。けっこう稼働率は高かったんですけど、今年、コロナ禍を経ても、どこの公立文化施設も、クラシック中心のホールはまだお客さんが戻ってないという現状もあって稼働率とか利用率低かったりするところも多いんですけど、その中でもすごく高い使用率を維持されて素晴らしいなと思いました。質問は、今回初めて見たような気がするんですけど、東京都中学校連合演劇発表会練習がけっこう並んでるんですけども、これは昨年度ですか。

<村田館長>

はい。昨年度と 1 昨年度 2 年間にわたって、東京都の連合演劇協議会からお話いただいて、その窓口は足立区立の第十四中の先生で、足立区の演劇の大会はあったんですけども、どこかのホールが改装しているので使わせていただけないかということで 2 年間限定で、12 月、1 月に 4 日間の練習をやって 2 日間の発表というのを 2 週にわた

ってやりました。さっきおっしゃったように 91%の使用率があるので我々の事業でさえ、特に厳しかったので今年度に関しては、他の場所でやるという風に聞いてます。

<伊志嶺委員>

はい、ありがとうございます。今、文化庁が中高の部活動も地域で支えていきましようみたいな方針を出したところで、けっこう公立文化施設でそういう中高の部活、演劇部であるとか、吹奏学部であるとかそういうところと連携してやるところがおそらく増えていっていて、実際に今やっているところもあるんですけど、何かそういう連携の仕方も今後あるのかなって少し思ったりしました。

<村田館長>

そうですね。小学校の芸能鑑賞教室というのを、梅田とギャラクシティでやっていたんですけど、今は全部ギャラクシティでやらせていただいているので、中学校に関しても、G がくえんという部活もありますので拡大して、地域に今だんだんと移行しておりますので、連携して今後できたらいいかなと思います。

<伊志嶺委員>

そうですね。例だと、新聞部とかでも、中高生が書いた記事を文化ホールの広報誌に出してあげるとか、例えば西新井文化ホールのイベントの様子を取っていただいて、それを、広報誌に出したりとかそうやって中高生をうまく社会に、貢献するような場を与えてあげると、またそれも高校生にとってすごく有意義になるっていう話を聞いて、

演劇部、吹奏楽部、写真部、新聞部等も色々な部活があるので、そういうこちらが持っているノウハウとうまく連携するといいんじゃないかなって少し思いました。

＜村田館長＞

そうですね。おっしゃる通りだと、文化ホールが取れなくても文化ホールじゃない他のところでも活躍ができる場がギャラクシティたくさんあるので、そういった取り組みは良いと思います。

＜伊志嶺委員＞

はい。もう 1 つは、未就学児入場可という公演はあるんですか。

＜村田館長＞

はい。未就学児可のイベントももちろんあります。毎年 12 月にやっておりますクリスマスコンサートは毎年完売です。これは若手ではあるんですけども、32、3 歳の指揮者の方なんですけど、フルオーケストラに来ていただいて、子供と親御さんに良い体験をしていただく、0 歳から入場可能なコンサートでお楽しみいただいています。あと昨年度は、テレビ放映で仮面ライダーギーツというのがやっております、そこのヒーローが来ていただいたのでかなり朝から並んでおりました。ヒーローショーは毎年できる限りやるようにはしております。文化ホールだけでなくプラネタリウムですか、あとオープンスペースでもやったこともあります。

＜伊志嶺委員＞

はい、ありがとうございます。

＜酒井委員＞

はい、1 点だけすみません。西新井文化ホールは非常にバラエティに富んだ企画が多くて、非常に素晴らしいなという風に思っております。それで実は、すごく前回から気になっていたクリイミーマミ。非常に素晴らしい企画で 11 月 3 日金曜、祝日で日にちもいいということで声優さんも来るとですね、とても人を呼べる企画だなと思っていて、実際この集客の数を見た時にですね、450 人の目標で実際は 75 人、それからアーカイブの方で 1001 人を目標として、実際は 324 人という非常にこの目標値と実際の数値のギャップが大きいんですけども、これはどのような原因が、少なかった理由が考えられるという分析でしょうか。

＜村田館長＞

元々は、マルチ体験ドームでクリイミーマミのイベントを予定しております、プラネタリウムだと 170 席しかないものですから、実はマルチ体験ドームの方は、もうすぐ埋まってしまったんです。なので急遽、要望がありまして、実は海外からの要望もあったものですから、文化ホールでパブリックビューイングというのは急遽設定した関係なんです。同時に配信もということで、マルチ体験ドームがメインで急遽ホールで行いました。マルチ体験ドームに入れなかった人の救済手段で文化ホール、さらに来られなかった人のための配信っていう 3 本立てで行った結果で、開催間際で決めたものですから…。

＜酒井委員＞

了解しました。実はこのパンフレットには
ギャラクシティ マルチ体験ドームってあ
るんですよ。そしてこの統計を見ると西新
井文化ホールの方に出ているものですか、
変だなって思ったのですが、理解しました。

<渡辺委員長>

はい、ありがとうございます。他に何かあ
りますか。

<山縣委員>

ちょっと前の話で申し訳ないですけど、プ
ラネタリウムの「ソラノユキサキ」、これ随
分前の作品ですよね。これは新たに人気
が湧いてきたっていう感じなんですか。それ
とも前の人が懐かしくてきたとか。

<村田館長>

いや、これはもうじわじわと、特に X です
ごい反響が多く、だったらせっかくなので
ということで。これも普段来られない方の
層が多数訪れております。これは根強い人
気が今でもあります。

<山縣委員>

続編を考えるとかはらないですかね。

<村田館長>

そうですね、原作者の方にはお話をしてお
ります。是非作っていききたいなと思うん
ですが。

<山縣委員>

もう 10 年前ですか。

<村田館長>

そうですね、だいぶ前です。

<山縣委員>

そろそろ新しいのを出した方が。

<村田館長>

はい。

<山縣委員>

よろしくお願いします。

<渡辺委員長>

はい。ありがとうございます。他に何かご
ざいますか。はい。では、次に移りたいと
思います。今度は利用の状況、利用者の満
足度についてお願いいたします。

<村田館長>

はい。28 ページ。実績が 130 万 5248 名、
過去 3 年平均が 63 万 9032 名ということで、
載せさせていただいております。加点に関
しましては 52 ページ。ギャラクシティを代
表する二大イベントのワークショップ無料
化を載せていただいております。1 日に、1
万人以上集まる、これは総来館者でもあり
ますけども、イベントがこれまでジャパ
ンフェスタ、ここ最近では、あだち鉄道ミ
ュージアムスペシャルという、2 つの大きな、
イベントがあったんですけども、ワーク
ショップに関しましては一部有料だったん
ですが、これを無料化にさせていただいて
おります。主な理由はやはり全ての子供たち
に、体験していただきたいという願いを込
めておりました。ギャラクシティは、ご存
知の通り遊具に関しては無料になっており
ますが、実はイベントも無料で魅力的なん

だよというのを伝えたい意思も含め、このような無料化に取り組みました。あだち鉄道ミュージアムスペシャルの人数に関しては、前年度比 152%増、ジャパンフェスタ in ADACHI2024、これは 1 月 2 月実施した方ですが 155%の増で終了しております。アンケートの結果から、参加者からのやはり満足度が高いご意見結構いただいていますので、今後のイベントに対する期待もかなり寄せられております。これはリピーターにつながるなということで大きな要因になっているという風に思っております。2024 年度に関しましては、まるちたいけんドーム入場料や体験講座の夏休み期間子ども無料化がありましたので、その流れも含めまして、今後、さらに多くの来館者を引き寄せられるようになるかと思っておりますので、今後も続けていきたいという風に思っております。利用状況に関しては以上となります。

<渡辺委員長>

はい。ありがとうございます。ここに対してご質問いかがでしょうか。

<山縣委員>

はい。感覚的に 1 日何人ぐらい、何千人ぐらい入ったらいっぱいだっていう感じになんですかね。今日は混んでいるというのが何人ぐらいになるのでしょうか。

<松尾副館長>

土日ですと、6000 人くらいで、かなり館内通路も人が埋め尽くしていて、通路を通るのに人を避けながら歩くような感覚があります。それがイベントになるとさらにその倍だったり 1 万人を超える人数になります

と、本当に大勢の方が来てくださって、館内各所を見ていただいているなっていうような感覚があります。

<村田館長>

年間で言いますと、夏休みが 7 月後半から始まるため、8 月がピークで 17、8 万人から 20 万人いきまして日の平均も上がります。それ以外ですと、今言った通り土日で 5、6 千人、平日は 2、3 千人で、大きなイベントがあると、多い時は本当に 8 千〜1 万人という感じになります。

<山縣委員>

何人くらいだったら、適正、適切だと言えるのでしょうかね。1 万人だと混んでてちょっと困るとかね。来る人も満足できないとかっていう人数が 1 万人ぐらいですかね？

<松尾副館長>

1 万人の規模になるとやはりイベントの打ち方とかをかなり気にしないと、十分楽しんでいただけないお客様が多くいるなという体感もございますので、その際にはどなたでもその場で楽しんでいただけるイベントを多く設定するとか、人員を多く配置するとかで、多い時で 1 万人規模のお客様に来ていただいているので多くの方が楽しんでいただけるようにというところで適正にしていけるように頑張っているという感じ です。

<山縣委員>

では目標は 1 万人？

＜松尾副館長＞

1 万人は、年に 1 回のイベントの規模でないとやはり難しいところはあるかなと思います。

＜山縣委員＞

通常の日だったらやっぱり 5 千人ぐらい来ていれば、良かったかなっていう感じですか？

＜松尾副館長＞

そうですね。

＜山縣委員＞

目標は 1 日 5 千人っていう感じですかね？

＜村田館長＞

そうですね。

＜山縣委員＞

それで言うと年間何人ぐらいなんでしょうね。

＜村田館長＞

そうですね、前年度は 130 万人だったんですけど。

＜中島課長＞

そうですね、約 320 日稼働として 160 万人。

＜山縣委員＞

じゃあこの 130 万人達成はまだ少ないっていう感じですかね。もうちょっと増やせるっていう感じ。

＜中島課長＞

そうですね、土日とかは、マックスだと思うんですけど、平日の方ですね。

＜村田館長＞

そうですね、あんまりコロナ、コロナ言いたくないんですけど、コロナで少なくなった方も今復活してきて、例えば団体なんかほとんどなかったものが、平日は団体メインにしていますので、団体の方も来ていただいておりますし、文化ホールに関しても、コロナ前と比べても戻ってきておりますし、ただ一部やっぱり高齢者はどの文化ホールに聞いても戻りが遅いとは聞いているんですが、1 月に実施する寄席とかも完売になりましたし、戻ってきているなっという感覚はあります。あとは実際に活動されている方は戻ってきているという実感はありますので、160 万人は高い目標ですけども、全ての子供に来て欲しいという願いを込めて、それに向かって少しずつ増やしていく努力はしたいです。

＜山縣委員＞

160 万人超えたらハードウェアをよくしていかなくてはならない。

＜酒井委員＞

はい。利用者アンケートの点よろしいでしょうか。1 番最初に利用者情報というのがあって、有効回答数が 853 という風にあるんですね。1 年通して利用者アンケートを回収していただいているんだと思うんですけども、どういう方にアンケートをお願いしますという風になっているのか、またどういいう方がアンケートに答えてくれている傾向があるのか、その辺りについてまず 1 点

お伺いしたいです。

<松尾副館長>

アンケートの配布に関しましては、館内の各遊具施設の体験されている方にお配りする場合があります。なので大人の方もいらっしゃるれば子供の方もいらっしゃるという中で、色々な来館者の属性の方にお配りしているかなと思います。

<酒井委員>

はい。なぜこの質問をしたかという、例えば利用者情報という1枚目のアンケートの1番下に利用頻度というのがあって、ほぼ毎日の人、週に3~4回の人、初めての人という風なこれを月単位でどういう方が来てるのかなというのを見た時に、ほぼ毎日の方は営業日数でかけ算をしてみる。それから月に1、2回の方はかけ算をしてみる。この利用者アンケートを書ってくれた人のどれぐらい利用をしている方がアンケートを書いているかというとはば常連さんみたいな方のアンケートの回答なんです。これを見ると、その次のページに情報誌はいかがですかというのがあって、かなり利用されている方の中でもこの情報誌について、面白い面白くないとかですね、いろんなこと書いてあるんですけども普段かなり利用されている方が多い中で、面白いが110、読んだことないが574なんです。実際に利用者の方にどういう風にこの情報誌を広める作業をしているのかなというのがちょっと気になったものですからその点はいかがでしょう。

<広報担当>

情報誌についてお話ししますと、コロナ前とコロナ後比べまして、今のところどういう配布しているかと言いますと、小学校、中学校を含めて年5回くらいやっているんですが、学校に全校配布しておりまして、こちら非常に効果的で、来館者の誘引にもなりますし、そこに取り上げたイベントほぼ1週間以内に予約が埋まるっていうことを今まで確認しております。非常に集客効果が高いです。コロナ前は、加えて東武スカイツリーライン沿線、足立区内、それから埼玉の草加、越谷辺りの来館者もけっこう多かったんで、そこを中心に新聞折り込みもしくは、コミュニティ誌のポスティングをやってました。印刷数で言いますと、今は、小学校配布がある時は4万、中学もある場合は5万で刷っております。このうち、3万強が学校配布です。それ以外に、館内で、あるいは学習センターでの配布に1万となっています。新聞折り込みをやっておりました時は、だいたい8万~10万部を入れておりました。そこから定期的にイベントの申し込みとかで、景品差し上げますよみたいな回の時もあるんですね。そういう効果を見て、学校配布は非常に効果高いんですけれども、新聞折り込みもしくはポスティングはあまり効果が見られなかったというのがありました。コロナ中に、色々情報誌は休みがあったりとか、年5回を2回に変えたりとか、情報誌もイベントが中心になるものですから、やり方を変えたんです。それでコロナ禍からは、できるだけいつでも空いているような、先に申し込むのではなくて、当日来ても、楽しめるイベント中心にする工夫をしています。例えば今、足立区の中でお子さんが小学生未満は全体

の戸数で多分 1/4 程度、世帯は 30 万ぐらいだと思うんですけども、小学校が大体 3 万ぐらいですから世帯数で限られているんですが、つまり相手を絞ったということが 1 つ影響していると思われます。これは効率等を検証した結果これが 1 番効果が高いです。配布数を絞ったんですけどもイベント、集客で非常にむしろコロナ前よりも申し込み率が非常に高まっております。ですから、情報誌の認知度が非常に、3 割以下っていうのは高いと決して思っておりませんが、集客等の効果で、試行錯誤しながらここ合わせて 7 年間ですね、その結果、非常に集客が高いところシフトした。あとは、スマホとかネット中心に、予算をシフトしたという結果でございます。

<酒井委員>

ありがとうございます。よく分かりました。情報誌の評価というものは、この利用者アンケートのこのどんなことがあるというもののだけで、判断しないで実際にその集客へのこの繋がりというもので見ていくという点で、この利用者アンケートのこの部分の見方というものはそういった点で注意していくというのがよく分かりました。あともう 1 つ質問したのは、かなり来館した方のアンケートの回答ですから、その方たちがその掲載情報が非常に役に立つものであるのに、読んだことがないというのはせっかく情報誌を作っているのにもったいないので、刷るとお金がかかる部分はあるかと思うんですけども、そういう来館者へのこの情報誌を渡す作業とか、そういったものも積極的にやるとこのアンケートに反映してくるのではないかと思いますので、毎回こ

の情報誌の効果と役割、このアンケート結果ですね、ギャップが大きいなっていうのがあるものですからこの辺りは配布の仕方、来館されている方への周知をやっていたかとまた今後に繋がるかという風に思いました。私からは以上です。

<村田館長>

そもそものご質問で、ギャラクシティで定期的に発行してる情報誌があるんですけど、これを例えば、「ギャラクシティが出している広報誌ワォ！はご存知ですか？」という、また違った結果が出てくるような気がします。実際に聞いて「ワォ！」を知っている？と聞くと、知っているという答えが出てくるので、少しそれも関係してる気がします。情報誌何だろうって考えてしまう方もいるのかなと思います。

<酒井委員>

はい。分かりました。

<渡辺委員長>

ありがとうございます。全体的な質問で他に何かいかがでしょうか。

このアンケートの用紙を今回出していたんですけど、これは、全て紙のものを配布しているのでしょうか。

<松尾副館長>

はい、そうです。

<渡辺委員長>

こうチェックできるタブレットを渡すとかなんか子供もわっとやってくれて、これ見

るとやっぱり書くの大変っていうのがありましたよね。だから別の方法でこう書けるようなものっていうのもあってもいいのかなと思いました。

<酒井委員>

アンケートの感想とか要望とか様々こう出てきてですね、ご意見の中には、非常に改善していく要素になるものが出ているということで、年に1度のこのアンケート結果のこの集計とは別に、実際どのようにそういうアンケートの中で寄せられたものを施設運営に具体的に反映されているのかについてお話いただければと思います。

<浅賀副館長>

はい。例えばこのアンケートの2番のところに書いてあります、「サッカーコーナーの並び列がいつも、初めての方で分からなかったり、入口出口が混乱しているのを目にします」といった意見なんですけども、こちらデジタルキャンパスのコーナーだと思われるんですが、こういった声がこのアンケートの中から複数見えたので、やはり分かりづらいということが、分かりましたので、コーナーに行く道を、床にシールを貼って色を分けて案内をすることで、よりお客様に分かりやすい案内ができるように工夫をいたしました。このアンケートから見て取れるところ、改善できるところは、こちらでも改善をしております。

<酒井委員>

はい。定期的に検討しているということでですね。ありがとうございました。

<工藤委員>

はい。まずアンケートを見てですね、感謝の方が圧倒的に多くて、素晴らしいなという、こういう施設がやっぱり足立区にあるというところが本当に良かったなと心から思いました。質問としては、アンケートというか先ほどウェブに移行してみると、お話もあったんですけども、けっこうウェブ経由で皆さん調べて来られる感じなんですかね。情報誌よりもスマホとかという方が圧倒的に多いのかなと思うんですけども。

<広報担当>

両方ですね。もちろん情報誌出した時に効果高いんですが、大体皆さんホームページを先に見て、またSNSをしていますので、よく来られる方はSNSをご自分で登録されているという状況です。ホームページに誘引するという意味で情報誌が大きな起点になっているというケースは多々ありました。

<工藤委員>

ありがとうございます。足立区の方々に聞いた方がいいのかもしれないんですけども、このアンケートで区外の方のほうが、多く答えているということで、その区内区外へのその割合みたいなことが目標値ってあるのですか？

<中島課長>

実際、目標値というのは無いんですけども、基本的に足立区の施設ですので、足立区の子供により多く体験していただきたいというのはあります。ただ、そうは言っても、今現在6対4が足立区民の割合なんですけども、それがコロナ禍の中で逆転しておりました。そうすると、来館者数が減っ

て、その魅力が区外に伝わらないのも、施設のアイデンティティがなくなっていく、そういったところもありますので、現状では、この状況がバランスの取れている状況であるのかなという風な認識はしています。ただ目標としては、特に数値は決めておりません。

<工藤委員>

では、比率ではなく、来館者数が増えていくところが目標である？

<中島課長>

そうです。昔は7対3で、あの8対2に近い状況になったことがあった時にですね、区議会の方から、区の施設なのになぜ区民が少ないんだといったご意見もあったことから、やはりバランスよく、全国に知っていただきたいっていうところもありますし、区の子供たちに使っていただきたいということもありますし、今のところは、1番いい数値なのかなという認識はしております。

<工藤委員>

ありがとうございます。質問の意図としては、足立区はけっこう広いので、なかなか子供たちが簡単に行くことができない。でも西新井周りの子たちとかは、自転車でもよって行けるような子たちは多分多く来るということで、より足立区の郊外のエリアに対してのタッチポイントというか、どういうコンタクトがあるのかなということで、今そこまでエリアを足立区のどこから来ているみたいなのは無いと思うんですけど、今後は、できればそういうところでより少ない地域みたいなのところからの集客だった

り、そこにストリートピアノを出すとか、そういう形とかがあると非常にいいのかなと。ちょうど昨日、宮城小台の全部の町内会集めてお祭りとかやってますけど、いろんな会社さん等も少しスポンサーとしてもらってやってたんですけど、そういうところとかにこうアウトリーチなどをしていくと良いのかなと思います。来ている地域にしてもあまり効果がないと思いますので。少し郊外の地域にコンテンツを増やしていただけるともっといいのかなと思いました。アンケートもそのような形でしていただくともう少しいいかなと思いました。以上です。

<渡辺委員長>

他にはいかがでしょうか。無いようでしたら、ここで本日のヒアリングを終了したいと思います。では指定管理者の方ご退出をお願いします。

<指定管理者>

ありがとうございました。

【指定管理者退室】

【意見交換・評価点決定】

<渡辺委員長>

それでは評価結果について、事務局から報告お願いいたします。

<小栗係長>

はい。業務評価シートをご覧ください。報告いたします。合計点が155点でございます。評価基準に照らしまして、評価はAとなりました。

<渡辺委員>

はい、ありがとうございます。今の評価結果について、疑義等がございましたらお知らせください。無ければ、得点155点で、総合評価 A、ランクダウンなしで評価を決定させていただきます。本日は、議事進行にご協力いただきありがとうございました。それでは事務局にお戻いたします。

<小栗係長>

はい。本日はどうもありがとうございました。評価につきましては、今後、教育委員会、また足立区議会への報告を致しまして、来年1月頃を目処に、区のホームページ上にて公表させていただく予定でございます。評価シートの評価委員記入欄の評価すべき点、改善すべき点、その他注意点につきましては、皆様にお話しいただいた内容を、最終的には委員長とやりとりさせていただきまとめさせていただければと思います。閉会の挨拶と致しまして、山縣副委員長からご挨拶いただければと思います。

<山縣委員>

はい、以上を持ちまして足立区ギャラクシィの令和5年度運営評価にかかる運営評価委員会を閉会いたします。ご苦勞様でした。ありがとうございました。

<各委員>

ありがとうございました。

【閉会】